



開物成務

令和元年 5月 24日（金）発行

校長 津田 将美

かっくん どうして ボクだけ しかくいの？



かいせい学級の先生方が担当する朝会が、5月14日（火）に行われました。昨年度は、「そらをとびたかったペンギン」というお話から、「一人一人の良さや輝きを大切にしてほしい」というメッセージを発信しました。今年度の「かっくん どうしてボクだけしかくいの？」も、それに負けないくらいの素敵なお話でした。

みんながまんまるの、まんまる家族のおはなしです。この家族はいろいろな色をしています、形だけはみな、まんまるです。ところが、生まれてきた赤ちゃんのかっくんは、まんまるでなく四角でした。四角の「かっくん」は家族みんなにかわいがられ大切に育てられましたが、子どもたちと一緒に遊ぶときには、みんなと体の形が違うため、なかなかいっしょにあそぶことができずに、とうとう、仲間はすれになってしまいます。

ある日、子どもたちで遊んでいる最中に森の中で迷い、真っ暗な闇に入り込んでしまいました。みんなが困って、不安でしかたないときに、かっくんの体が光り、みんなを安心させてくれます。そしてみんなは、無事に家に帰ることができたのです。かっくんのもつ個性（良さ）に気づいた子どもたちは、かっくんも大切な存在と考えるようになります。

色彩豊かなやさしいイラストと細川先生の語りが、このお話の良さを引き立てます。かいせい学級の子どもたちも、自分たちの大好きな先生たちが前に出てお話をしてくれるので、一生懸命に観て、聴いていました。もちろん、他の1年生から6年生までの子どもたちも。

「みんなちがうけど、みんなであそぼうよ。」

最後のこの言葉に、このお話のテーマが凝縮されているように感じました。

子どもたち一人一人には、その子なりの個性があります。時には、その個性は他と違うことを指摘されたり、目立つことで孤立したりします。しかし、この物語のまあるい子どもたちのように、みんな「そのままだのかっくん」を受け入れるような経験を積み重ねていくことで、いずれ自分自身の良さ（すてきさん）にも気づくようになっていくのではないかと思います。学校というのは、その子なりの個性、その子なりの輝きをみんなで認め、大切にし、お互いに伸びていく場所です。だからこそ、いろいろな個性が共に過ごし、ふれあい、時には衝突してそれを乗り越えていくような経験が貴重なものになってくるのです。

物語の後に、福留先生と木曾先生から「かいせい学級」についてのお話がありました。かいせい学級の子どもたちの成長とその子なりの輝きが、交流学級の中でも発揮される場面が多くなってきました。それは、かいせい学級の子どもたちの成長と共に、交流学級みんなの成長があるからだと思います。この日の朝会のメッセージが、子どもたちの心にしっかりと残ってくれるといいな、と思いました。

共に学び、共に伸びる。そんなふうに仲間と生活していけることは幸せなことです。子どもたちの「他を認め、自分とは違った個性から学ぶ姿」をこれからも「開成小のすてきさん」として、この学校便りでも紹介していきたいと思います。



修学旅行 6年生
5月8日(水)
~9日(木)



夕飯の片付けが終わり、協力して片付けたテーブルの上の撮影をしていた時のことです。

「校長先生、何しているんですか？」

「みんなの片付けが上手だから、学校だよりも載せようと思ってね。」

「じゃあ、こっちの方がいいですよ。」

食事の片付けが終わった6年生から、声をかけられました。そして撮影したのが、上の写真です。しっかりと食事を作ってくださった旅館の方への感謝の気持ちが表れた片付け方です。なぜ最初の写真ではいけなかったのかと言いますと…、「全体を撮ると、残飯が見えちゃうから…」

ということでした。6年生とは言え、何ともかわいらしい理由に思わず笑ってしまいました。6年生なりに、残飯が出てしまったことへの申し訳なさ、しっかり片付けられたことの誇らしさが微妙に入り混じっていて、どちらからも旅館の方々への感謝の気持ちが感じられます。

楽しい修学旅行ではありましたが、思い出づくり、絆づくりの合間に見せる周りへの気配り、すてきさんの心がうれしかったです。

6年生の良さは、毎日の学校生活で下級生に引き継がれ、来年の修学旅行でも同じようなすてきさんの姿を日光の方々に見せてくれるんだろうなあ、とたくましく感じました。

林間学校 5年生 5月16日(木)~17日(金)

「先週の週間天気予報を見て、校長先生は悲鳴を上げました。降水確率が木曜日は90%、金曜日は80%だったからです。」

出発式の挨拶でこのように切り出すと、何人もの子がうなずいてくれました。きっと先週から林間学校の天気を気にしていたのでしょう。

「でもね、そのことを松川先生に言ったらね、『校長先生、大丈夫です。天気予報は変わりますから。』だって。」

子どもたちは驚いたように松川先生を見て、そして少しずつ日が差してきた空を笑顔で見上げました。この林間学校にかける5年生の子どもたちと先生方の熱意が、空の予定も変更させてくれたようです。

元気に出発した子どもたちは、元気にもどってきました。応援に行ったキャンプファイヤーも、全員ですばらしい思い出を作っていることが伝わってきました。

みんなで共に過ごす、協力して活動する、苦労を共にする、そんな様々な活動が5年生をひと回り成長させてくれたようです。そして仲間との絆をエネルギーに、6年生を助けながら開成小のすてきなリーダーとなってくれることを予想させる林間学校でした。



まだまだ明るくても、マイムマイムで盛り上がるキャンプファイヤー

見つけたよ、すてきさん

小林さんは、とても喜んでいましたよ。すてきなお手伝いをしましたね。

みなさんは、用むいの小林さんを知っていますか。小林さんは、みんなが勉強したり、遊んだりしている間も学校のそうじやゴミすてなどをしてくれています。

長い連休の終わったある日、さくららの木の下には、さくららのしんがたくさん落ちていました。午前中、小林さんは竹ぼうきでそうじをし、てくれました。

午後になり、小林さんは、庭を掃除した山のようなしんをすてようと思っていました。

子どもたちは、昼休みでいます。小林さんが仕事をしようと思っていること、2人の4年生が手伝おうか？と声をかけてくれたそうです。

昼休みだったけど、2人の4年生がいっしょうけんめい手伝ってくれたので、あつというまにきれいになりました。

これは、4年生の廊下にはられた掲示物です。いつも子どもたちのために、見えないところでも心を込めて仕事をしてくださっている用務員の小林さんに、さりげなく配慮ができるすてきさんのお話です。

子どもたちの輝きは、キラキラ輝くもの、ひっそりと光を発しているもの、受けた光を遠慮がちに反射しているものなど、それぞれです。そういうもののひとつひとつに注意深く気づき、その良さを子どもたちに伝えていくことのできる教師でありたいと思います。